

月刊

地域保健

9
2015

●特集

妊娠、出産、子育ての切れ目ない支援の中で
10代の母を支える

●統括に聞く

岡本理恵さん 《名古屋市 健康福祉局 健康部 健康増進課 地域看護係長》

●ピープル

高田佳子さん 《日本笑いヨガ協会 代表》



8

特集

妊娠、出産、子育ての切れ目ない支援の中で

10代の母を支える

10 10代の妊娠・出産の現状と必要な支援

16 若年妊娠の医学的、社会的リスク

21 倫理学の立場から、若年妊娠について考える

26 松江市の10代母親の子育て支援

～10代で妊娠・出産した母子への対応マニュアル作成から～

32 佐倉市における10代で妊娠・出産した母親の集い

～「Happy mama style」～

38 堺市中保健センターが取り組む若年母の支援と性教育

～「いのち♡ありがとうプロジェクト」～

1

統括に聞く

岡本理恵さん(名古屋市 健康福祉局 健康部 健康増進課 地域看護係長)

46

FOCUS

運動による医療費削減効果を分析した北名古屋市の取り組み ～「第3回健康寿命を延ばそう!アワード」を受賞～

52

特別寄稿

地域と連携した食育 ～愛南町の「ぎょしょく教育」の取り組み～

76

ニュース

97

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ!

金子 裕さん(大和市役所 健康づくり推進課)

102

ピープル

高田佳子さん(日本笑いヨガ協会 代表)

連載

⑤8 理解して生かす保健師用語《第6回》

「介護予防」

⑥0 ESSAY 国際保健《第6回》

松田正己

⑥2 保健師のための閑話ケア《第57回》

藤本裕明

⑥6 中臣さんの 環境衛生ウォッチング《第42回》

中臣昌広

⑦1 いまどき子育てアドバイス《第216回》

中川信子

統括に聞く

愛知県
名古屋市

合意形成を図りつつ保健師の意識改革を

統括の礎を築く覚悟を決めて

岡本理恵さん

● 名古屋市 健康福祉局 健康部 健康増進課 地域看護係長

名古屋市庁舎前にて

文：編集部 写真：カミヤス セイ

今月の「統括に聞く」にご登場いただくのは、人口228万人の政令指定都市、名古屋市の岡本理恵さんだ。健康福祉局健康部健康増進課地域看護係長という立場で、難病支援の業務とともに市の保健師290人を統括する仕事に就いている。

人に求められる 仕事をしたい

岡本さんは兵庫県滝野町（現在は加東市）の出身。会社を経営する父と看護師の母の間に長女として生まれた。将来の職業として、両親からは学校の教師を勧められたが、教職には興味を持たず、選んだ道は看護職。普通に考えれば母の背中を見てということになるが、理由はそれほど単純ではなかったらしい。

「私はコンプレックスが強く、自信のない子どもだったので、人に求められる仕事に就きたいという願望がありました」

した。そのイメージに近いのが看護職だったのです」

そう話す岡本さんは、スタイリッシュで整った目鼻立ち。明るくてきびきとした話し口でテレビキャスターとしても通用しそうな印象だ。どう見てもコンプレックスとは無縁に思えたので、その理由を尋ねると、次のような答えが返ってきた。

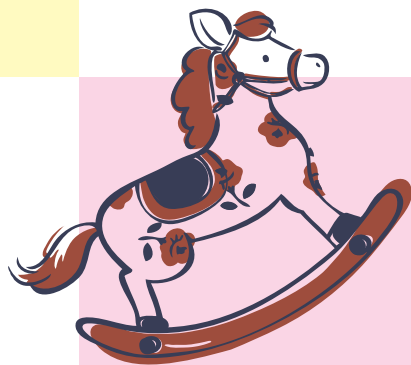
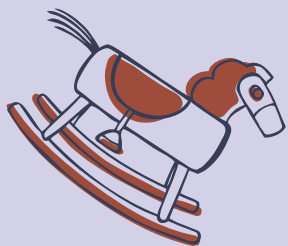
「父は仲間と会社を立ち上げて精力的に働いていましたし、母は若くして部長職に就き、看護学校の校長や看護協会の役員を務めるなど、仕事のできる女性でした。そんな家庭環境だったので私に対する要求水準も高かったのです。その期待になかなか応えられていない思いがあつて……。職業選択に当たっては、正直なところ母と比べられるのが嫌で、看護職に就くことに抵抗がありました」

こうした複雑な思いを抱えてはいたが、人に求められる仕事をするなら看

護職との気持ちは変わらず、高校を卒業すると同時に愛知県内の看護系大学へと進む。

公衆衛生看護学の実習先は名古屋市緑保健所だった。見学するだけになりがちな今と違い、当時は保健師に同行する家庭訪問に力を入れていた。実習には一生懸命予習をしてから臨んだという。ところが訪問先ではしばしば予想もしない出来事が起きた。そんなときにも保健師は何事もなかったようにうまく対処し、住民から厚い信頼を得ているようだった。その姿に岡本さん





P10 10代の妊娠・出産の現状と必要な支援

◎大川聡子（大阪府立大学）

P16 若年妊娠の医学的、社会的リスク

◎取材協力：水主川純さん（聖マリアンナ医科大学）

P21 倫理学の立場から、若年妊娠について考える

◎児玉 聡（京都大学）

P26 松江市の10代母親の子育て支援

— 10代で妊娠・出産した母子への対応マニュアル作成から

◎山本志歩美（松江市保健センター）

P32 佐倉市における10代で妊娠・出産した母親の集い

— 「Happy mama style」

◎上條友美（佐倉市役所）

P38 堺市中保健センターが取り組む若年母の支援と性教育

— 「いのち♡ありがとうプロジェクト」

◎山中八重（堺市中保健センター）

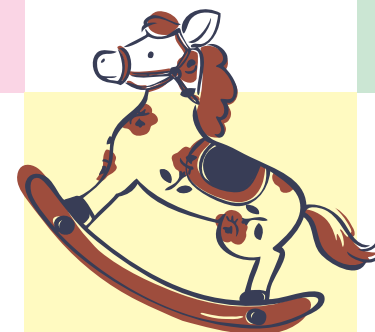
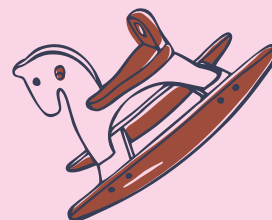
特集

妊娠、出産、
子育ての
切れ目ない
支援の中で

10代の 母を支える

わが国では、若年出産（20歳未満の妊娠）は全出生数の1%ほどで、諸外国と比較してもそれほど多いというわけではない。しかし、若年母親は精神的に未熟で育児知識が乏しく、20歳以上を対象とした子育て支援と同様の方法では、難しい点がある。

今月の特集では、10代の妊娠、出産を社会、医学、倫理等の目線から各専門家に解説していただき、若年出産への支援を実施している自治体の取り組みを紹介しながら、10代の母親に必要な支援を検討したい。





10代の妊娠・出産の現状と必要な支援



大川聡子

(おおかわ・さとこ 大阪府立大学
地域保健学域 看護学類 准教授)

大阪府内で若年母親のフィールド調査等を実施し、支援の在り方を検討している大川聡子さんは、10代で子どもを産む母親の背景に特殊な状況が存在するのではないかと指摘する。若年母親が孤立しないためにも、若い人が子育てしやすい環境の構築が求められている。

次に、10代の人口千対人工妊娠中絶実施率と、人口千対出生率、10代の結婚期間が妊娠期間より短い出生、いわゆる「できちゃった婚」が嫡出第1子に占める出生構成割合（以下、

2013（平成25）年の10代の母親の出生数は、1万2964人（人口動態統計）であり、全出生数に占める出産割合は1・26%と少数です。一方、人工妊娠中絶件数は1万9359件に上ります。中絶件数と出産数を足してその年の妊娠者数と仮定し、出産数から妊娠した人数を除いたものを出産割合とします。この出産割合、中絶件数、出産数を図1に示します。13（平成25）年の10代の出産割合は40・1%です。10代で妊娠した女性のうち、出産を選択しているのは約4割であることが分かります。

10代の妊娠・出産の現状

結婚期間が短い出生（右軸）を示し、1955（昭和30）年から5年おきに比較したものを図2に示します。10代の人工妊娠中絶実施率は2・5～12・1%と大きな変動が見られますが、10代母親の出生率は、55（昭和30）年から現在に至るまで3・6～5・9%で推移しており、大きな変動はありません。このことから筆者は、若年出産は「望まない妊娠」だけでは語れない、若年出産をする「層」があるのではと考えました。

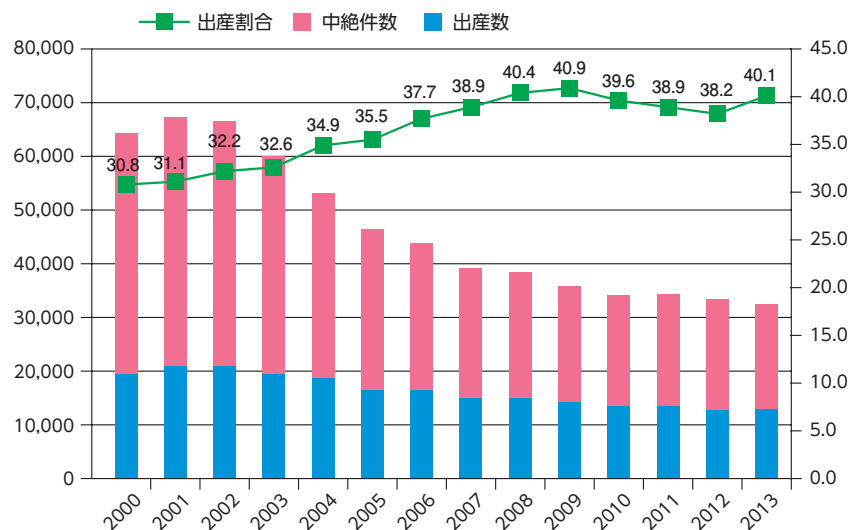
10代の母を取り巻く状況

先進国中で10代での出産が極めて多いアメリカやイギリスでは、若年母親の出産の背景に、貧困や経済的機会の欠如など社会的不利があることが認識されており、こうした不利を解消するために、若年妊娠予防対策と同時に、出産した母親に対する支援が行われ

ています。具体的には、子どもの託児施設のある高校、教育や職業訓練を受けている間の保育料の支払い、子どもの早期学習をすすめるプログラム、ならびに地域の社会資源やサービスにつながるメンター等、学業継続や就業への支援です。

日本では、若年妊娠に関する施策は性教育などの若年出産を「予防」する取り組みに重きがおかれ、若年母親に対する支援はほとんどありません。このため、出産した母親は家族や周囲のインフォ

図1 2000～2013年の10代の出産数、中絶件数、出産割合



(人口動態統計及び母体保護統計・衛生行政報告例より筆者作成)



地域でサポートを 必要としている人を支えたい

全体の健康課題と個人との関わりを大切に

かねこ ゆう

金子 裕さん

●大和市役所
健康づくり推進課



文：太田美由紀（ライター） 写真：C.Kent

神奈川県大和市は、同県の横浜市や藤沢市、東京都町田市などに隣接している。三つの鉄道と東名高速道路が通り、東京へも横浜へも通勤圏内だ。

市の中央部には美しい水が湧き出る水源地、「泉の森」と呼ばれる公園もあり、緑豊かな環境と生活の利便性が人気で、1970（昭和45）年から今までに人口は倍増している。

金子裕さんは、大和市初の男性保健師。心やさしいスポーツマンは、笑顔で絶やさないことを心掛けながら、健康福祉部健康づくり推進課で3年目を疾走中だ。

医療職へのきっかけは なぜイナバウアー！

「この健康遊具は、平成26年度から29年度にかけて市内約100カ所の公園に設置が進められているものなんです。現在、20カ所に設置が完了しています」と、撮影を進めながら使い方を

教えてくれた金子さん（前ページ参照）。小中学校では野球部、高校ではハンドボール部に所属し、体を動かすことが大好きだったと笑う。

「母からは、チョロチョロ動いて落ち着きのない子だったとよく言われました。でも一方で、図書館に行くことも大好きで、魚や動物、植物など、いきものの図鑑をよく見ていた記憶があります。当時流行っていたオオクワガタも、成虫をかうと高いので、幼虫から育てていました」

人の体の働きや植物の仕組みが面白く、高校でも得意科目は生物だった。そんな金子さんが医療職へ進むきっかけとなったのは、高校2年生のころの思いがけない出来事だ。

「ハンドボール部ではキーパーをしていたので、小さなケガは絶えなかったのですが、ある日、部活の休憩時間中に、フィギアスケートの荒川静香さんのイナバウアーを真似していたら、の



どのあたりでブチッと音がしました。その後、呼吸をするたびに笛のようにヒューヒューと音がするんです。これは普通じゃないと思って救急病院に行ったら、そのまま入院になりました」
診断名は気管損傷。放っておけば窒息してしまうという危険な状態だった。幸い、手術には至らず、絶対安静

高齢になっても、障がいがあっても、
笑って暮らせる環境をつくりたい



日本笑いヨガ協会 代表

高田佳子さん

●聞き手 編集部



笑いの体操とヨガの呼吸法を組み合わせた運動法「笑いヨガ」。高田佳子さんは2009（平成21）年1月にインドでその魅力を知り、すぐに日本笑いヨガ協会を設立。以後、多くの人々にその素晴らしさを伝え続けている。

高田さんの源点は、学生時代に抱いた「人が笑顔になる空間をつくりたい」という思いにある。その実現のために走り続けてきた高田さんの、これまでとこれからについて伺った。

建築の力で、笑顔になる空間をつくりたい

— 一級建築士の資格をお持ちなのですね。

高田 兵庫県の明石工業高等専門学校
の建築学科で学びました。

そこにいるだけで笑えるとか、宗教
建築のように厳かな気持ちになるといっ
た「空間」の感触に興味があり、私
は「人が笑顔になる空間をつくりたい
」と思っていました。吉本新喜劇や

松竹新喜劇を観て育ったということも
あり、笑いヨガに出合うずっと前から
「笑い」に関心がありました。年をとっ
ても命のある限り、ハッピーで笑って
暮らせる環境をつくりたいと思うよう
になり、最初は建築でそれを実現した
いと考えたのです。

卒業設計は「Community for Senior
Citizens（高齢者のためのまち）」^①。リ
タイアした人たちが、「今日は何をし
て遊ぶか」と考えながら、ワクワク
して暮らせるまちです。教官からは「君
が考えているのは20歳の高齢者だよ。

PROFILE

●たかだ・よしこ●

日本笑いヨガ協会代表、株式会社アートランド代表取締役。
桜美林大学加齢・発達研究所連携研究員、NPO法人日本ケアリ
ングクラウン協会理事、一級建築士、老年学修士。2009年1月、
笑いヨガ考案者のDr.カタリアからインドでラフターヨガ（笑い
ヨガ）を学び、帰国直後に日本笑いヨガ協会を設立。全国各地
で指導・講演をする傍ら、執筆活動なども行う。『大人の笑トレ』
（ゴルフダイジェスト社）、『大道芸イキイキ空間』（学芸出版社）、
『ポケないための笑いヨガ』（春陽堂）、『笑いヨガで超健康にな
る！』（マキノ出版）のほか、パフォーマンス関連の著書多数。

本当の高齢者は、障がいがあったり体
がつかったりして、ワクワクした気
分で目覚められないよ」と言われまし
たが、そのとき「高齢になっても、障
がいがあっても、笑って暮らせる環
境をつくりたい」と強く思いました。